

使徒 4 : 1-31、5 : 17-42

「真理を宣べ伝えると、迫害される」

- 4:1 彼らが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、またサドカイ人たちがやって来たが、
- 4:2 この人たちは、ペテロとヨハネが民を教え、イエスのことを例にあげて死者の復活を宣べ伝えているのに、困り果て、
- 4:3 彼らに手をかけて捕らえた。そして翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。
- 4:4 しかし、みことばを聞いた人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。
- 4:5 翌日、民の指導者、長老、学者たちは、エルサレムに集まった。
- 4:6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな出席した。
- 4:7 彼らは使徒たちを真ん中に立たせて、「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか」と尋問しだした。
- 4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。
- 4:9 私たちがきょう取り調べられているのが、病人に行った良いわざについてであり、その人が何によっていやされたか、ということのためであるなら、
- 4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってください。この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。
- 4:11 『あなたがた家を建てた者たちに捨てられた石が、礎の石となった』というのはこの方のことです。
- 4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」
- 4:13 彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。
- 4:14 そればかりでなく、いやされた人がふたりといっしょに立っているのを見ては、返すことばもなかった。
- 4:15 彼らはふたりに議会から退場するように命じ、そして互いに協議した。
- 4:16 彼らは言った。「あの人たちをどうしよう。あの人たちによって著しいしるしが行われたことは、エルサレムの住民全部に知れ渡っているから、われわれはそれを否定できない。
- 4:17 しかし、これ以上民の間に広がらないために、今後だれにもこの名によって語ってはならないと、彼らをきびしく戒めよう。」
- 4:18 そこで彼らと呼んで、いっさいイエスの名によって語ったり教えたりしてはならない、と命じた。
- 4:19 ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。
- 4:20 私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」
- 4:21 そこで、彼らはふたりをさらにおどしたうえで、釈放した。それはみなの方が、この出来事のゆえに神をあがめていたので、人々の手前、ふたりを罰するすべがなかったからである。
- 4:22 この奇蹟によっていやされた男は四十歳余りであった。
- 4:23 釈放されたふたりは、仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。
- 4:24 これを聞いた人々はみな、心を一つにして、神に向かい、声を上げて言った。「主よ。あなたは天と地と海とその中のすべてのものを造られた方です。
- 4:25 あなたは、聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの民はむなしいことを計るのか。
- 4:26 地の王たちは立ち上がり、指導者たちは、主とキリストに反抗して、一つに組んだ。』
- 4:27 事実、ヘロデとポンテオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民といっしょに、あなたが油をそそがれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、

4:28 あなたの御手とみこころによって、あらかじめお定めになったことを行いました。

4:29 主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。

4:30 御手を伸ばしていやしを行わせ、あなたの聖なるしもベイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行わせてください。」

4:31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。

はじめに

今日は、関連のあるふたつの聖書箇所から学びます。

そのどちらも、初代教会における迫害について語ります。

まず使徒 4 : 1-31 を学び、その後、使徒 5 : 17-42 を学びます。

ルカはこのふたつの出来事の間、アナニヤとサツピラの話を含んでいますが、初代教会の迫害について、一度に学ぶのがよいと考えました。

ですので、使徒 4 : 32-5 : 11 は 7 月 14 日に学ぶことにします。

イエスは十字架にかけられる前夜、弟子たちに話されました。その中で、彼らその後直面する困難についてあらかじめ警告されます。

ヨハネ 16 : 33

16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

今日の聖書箇所は、イエスが語られた患難の序章です。

あるクリスチャン作家は「世間は、自分たちの許容範囲だとみなす教会のみを許容する」と言いました。

つまり、世間に受け入れられるようにふるまう教会に限り、世間から容認される、ということです。

教会が、社会貢献にのみ関わり、貧しい人を助けたり、困窮者の援助活動を金銭的に支援したりするだけなら、世間は教会を歓迎してくれます。

けれども、教会がマタイ 28 : 18-20 に記された大宣教命令を真剣に受け止め、聖書の真理に固く立ち、福音を宣べ伝えるために世の中に出ていくと、歓迎ムードから一変して迫害が起こります。現代では、教会が聖書の真理を信じる立場を取ると、何らかのかたちで迫害を受けるとっておくべきです。

実際、パウロはテモテへの第二の手紙 3 : 12 で次のように語ります。

「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」

ですから、教会や個人生活の中で福音や聖書的立場に対する反発に出会っても、不思議ではありません。

初代教会の話から、私たちが正しいことをしていれば、福音宣教や聖書の真理を教えることを邪魔しようとする敵からの攻撃を何らかのかたちで受ける、ということがわかります。

使徒の働きに記された出来事の流れは、福音宣教が進むところでは必ず繰り返されます。

今日の聖書箇所、使徒 4 : 1-31 には、5 つの状況が記されています。それぞれ取り上げていきましょう。

1. 反発を見極める。(4 : 1-7)

まず、どのような反発や抵抗があるかを見極め、ペテロが告げたメッセージに彼らがなぜ反発したのかを考えましょう。

ルカは、当時の支配構造についてここで紹介します。

挙がっているのは、祭司たち、宮の守衛長、またサドカイ人たちです。

祭司たちは、宮で行われるすべての活動の責任者でした。

宮の守衛は、大勢の人が集まる宮の秩序を守る警備の責任者でした。

サドカイ人は、イスラエルの支配階級者でした。彼らは、イスラエルを支配していたローマ帝国の権威者との関係維持に特に気を配っていました。

サドカイ人には、神学的にも政治的にもそうする理由がありました。

神学的には、サドカイ人は死後のいのちを信じていませんでした。ですから、イエスを例に挙げて死者がよみがえると話していた使徒たちに気をもんでいました。これは、2節に記されています。

また、政治的にも、イエスのことを宣べ伝える人たちに宮の群衆が加わることに不安を感じていました。

ローマ帝国の役人たちは、この一連の出来事について、地域の政情不安につながる危険な運動が広がっていると捉えるかもしれません。

当時、ユダヤ人がユダヤ教を信じることに對して大した規制もなく、容認されていました。この騒ぎをしずめる手っ取り早い方法は、中心人物を投獄することでした。これが3節に書かれていることです。

けれども、中心人物を投獄しても、福音の広がりを止めることはできませんでした。

使徒 4 : 4

4:4 しかし、みことばを聞いた人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。

翌日、ペテロを尋問するために指導者たちが集まったとあります。

その質問の主旨は、「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか」というものでした。

この個所で見逃してはいけないことがあります。それは、神の民の指導者である人々が、自分たちの礼拝しているはずの神がなさろうとしていることをまったくわかっていなかったことです。

それは今も同じです。

使徒の働きは、使徒たちをとおして聖霊の働きによってイエスが働きを継続しておられることを教えてくれます。これについてはすでに学びました。けれども、宗教指導者たちにはこの働きが認識できなかったのです。

聖霊をとおして、イエスと霊的なつながりを築かなければ、この世でなされる神の働きを認識することはできません。

この個所に登場する宗教指導者たちは、聖書の神を礼拝していると言っていました。イエスが救い主であることに気づきませんでした。なぜわからなかったのでしょうか。

それは、彼らの心が不信仰で悪い心だったからです。彼らは、聖霊の働きを受け入れようと心を開きませんでした。

私たちが常に聖霊の働きに対して心を開いていることを願います。聖霊は常に働いておられるからです。

聖霊は、人に罪を示し、すべての信徒がきよい生き方ができるように成長させるため、働いておられます。

2. 質問に対するペテロの返答 (8-12 節)

ペテロは、牢屋から出されて、法廷のような場に引き出されました。

そこでペテロは聖霊に満たされて、3つの要点を含む短い説教を語り始めました。

要点 1

ペテロは、ナザレのイエス・キリストが足の不自由な男を癒されたと言いました。男が自力で癒したのでも、ペテロが癒したのでもありません。

ペテロは、この奇跡が起こった栄光をすべてナザレのイエス・キリストに帰しました。

要点 2

ペテロは、ナザレのイエス・キリストが今も生きておられ、権威ある立場におられるとユダヤ人指導者たちに言いました。そして、イエスの十字架刑の責任が指導者たちにあると言いました。彼らの行いに反して、神がイエスを死から復活させられた、と指摘しました。そして、彼らが大切にしている聖書の個所から、詩篇 118 : 22 を引用します。

要点 3

ペテロは、イエスが唯一の救い主であると宣言しました。つまり、他の誰をとおしても、救われる可能性はないと言ったのです。

リビングバイブルには、「この方以外には、だれによっても救われません。天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにないのです」とあります。

ペテロが言ったのはこういうことです。

神に通じる道はただひとつ、それがイエスをとおしてである。

イエスを否定することは、神を否定することです。

ヨハネ 14 : 6

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

ペテロが語ったのはとても短い説教でしたが、とても大切なことを指摘しました。

神に通じる道がたくさんあるのではなく、道はただひとつ、それが、イエスをとおしてであることです。

ペテロは、イエスの力を証明する証拠として足の不自由だった人を用いました。聖霊をとおして、この男性が癒されたからです。

これは、イエスの復活の証でした。

ペテロが癒したのでも、男性自身が自力で良くなったのでもないなら、誰が癒したのでしょうか。

ナザレのイエス・キリストです。

現代の私たちが、ペテロのように **40 歳**を超えた障害者の癒しに関わり、福音を伝える機会を得る可能性は低いでしょう。

けれども、イエスの死と復活に関する福音のメッセージを伝えるチャンスは、すべてのクリスチャンに平等に与えられています。

イエスの十字架上の御業を信じ、聖霊の力によって神に心を変えられたなら、福音のメッセージを伝える何より素晴らしいチャンスを与えられています。

自分の心を変えられたこと、自分の努力で変わったのではないことを、伝えられます。自分の努力で変わったのでなければ、誰が変えたのでしょうか。

その答えを、あなたが人に伝えることができます。イエス・キリストについてのキリスト教の福音を信じたときに、神が心を変えてくださったと言えます。

そうすれば、心を変えられているのですから、イエスのことを容易に話すことができるでしょう。

だからこそ、罪を悔い改めて、罪を赦して心を変えてくださいと神に願い求めることが大切なのです。

聖霊が私たちの心の中に住んでおられなければ、心の変化は起こりません。

ですから、神の聖霊による新生が不可欠です。

この世でもっとも説得力のある証とは、イエスの弟子として従う人の変えられた心と生き方です。

これには、人生をささげる必要があります。イエスはそう明言しておられます。

マルコ 8 : 34-38

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。

8:36 人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。

8:37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。

8:38 このような姦淫と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」

3. 聴衆の反応 (13-22 節)

ルカはまず、肯定的な反応について記します。指導者たちは、ペテロの大胆さに目を留め、彼らが無学な漁師であるのに驚きました。

そして、彼らがイエスとともにいた人たちに違いないと結論付けました。

指導者たちはイエスについて、そしてイエスが起こした奇跡についても知っていました。

イエスの名は知れ渡っていました。

指導者たちは、足の不自由な人が癒された奇跡を否定することはできないとわかっていました。

その男性は 40 年以上も歩けなかったし、そのことは誰もが知っています。ですから、実際に起こった奇跡を否定することはできません。

では、宗教指導者たちはどう対処できるでしょう。

宗教的な人たちなら誰でもするように、会議をすることにしました。

その結果、ペテロと使徒たちを脅して、イエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命じることになりました。

彼らは、福音のメッセージが広まるのを止めようとしたのです。

使徒たちは、律法を犯したわけではありません。足の不自由な人は癒されました。

あわれみの業がなされたことは誰の目にも明らかですから、使徒たちを罰すれば、人々が騒ぎを起こすかもしれません。

ペテロとヨハネは、こう命じられて次のように答えました。

使徒 4 : 19-20

4:19 ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。

4:20 私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」

宗教指導者たちは、地元で騒ぎを起こさずに使徒たちを罰する方法を見つけることができませんでした。それで、そのまま釈放しました。

日本でも、お寺の近くで福音を語ろうと出かけて行ったら、抵抗されるでしょうか。

きっとそうなります。実際、今年のお花見シーズンに大阪城公園に行ったときにもあることが起こりました。私たちは空いている場所を見つけて冊子を置き、歌ったり人に話しかけたりして福音を伝えようとしていました。すると、私たちのすぐ近くに座っていた団体の代表らしき英国人の男性が来て、私たちのしていることが気に入らないから、別の場所に移動してほしいと言ってきました。

私たちの話している内容が、その団体に悪影響を及ぼさないためだと言います。

私が断ると、その男性は怒って、私たちを強制的に移動させようと警備員に話しに行きました。

幸い、警備員は私たちの活動でしないしてほしいことをいくつか言っただけで、その後も続けてイエスを分かちあうことができました。

福音のメッセージが語られることに対して、そこまで怒りをあらわにされたのは私も初めてでした。それが英国人だったというのは、納得できます。

4. この出来事に対する初代教会の反応。(22-30 節)

初代教会は、この一件を受けて、祈祷会を開き、弟子たちが福音に忠実でいられるよう助けてくださった神をたたえました。

そこで、彼らは詩篇 2 篇を引用し、このような状況でも主権を握っておられる神をたたえました。

詩篇 2 篇

2:1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。

2:2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、【主】と、主に油をそそがれた者とともに逆らう。

2:3 「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」

2:4 天の御座に着いている方は笑い、主はその者どもをあざけられる。

2:5 ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。

2:6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」

2:7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』

2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。

2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」

2:10 それゆえ、今、王たちよ、悟れ。地のさばきづかさたちよ、慎め。

2:11 恐れつつ【主】に仕えよ。おののきつつ喜べ。

2:12 御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。

祈りの中で、信徒たちは神のご性質とみことばからの根拠に照らして敵意を理解していたことを明確に示しています。(28 節)

どれほどひどいことが起こっても、主権者なる神のみことと無関係に神の民に何かが起こることはありません。

ヨセフが兄たちによって奴隷として売られたときもそうでした。

創世記 50 : 15-21

50:15 ヨセフの兄弟たちが、彼らの父が死んだのを見たとき、彼らは、「ヨセフはわれわれを恨んで、われわれが彼に犯したすべての悪の仕返しをするかもしれない」と言った。

50:16 そこで彼らはことづけしてヨセフに言った。「あなたの父は死ぬ前に命じて言われました。

50:17 『ヨセフにこう言いなさい。あなたの兄弟たちは実に、あなたに悪いことをしたが、どうか、あなたの兄弟たちのそむきと彼らの罪を赦してやりなさい、と。』今、どうか、あなたの父の神のしもべたちのそむきを赦してください。」ヨセフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。

50:18 彼の兄弟たちも来て、彼の前にひれ伏して言った。「私たちはあなたの奴隷です。」

50:19 ヨセフは彼らに言った。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。

50:20 あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。

50:21 ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたや、あなたがたの子どもたちを養いましょう。」こうして彼は彼らを慰め、優しく語りかけた。

イエスの死についても同じです。

使徒 2 : 22-24

2:22 イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議とするしを行われました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身がご承知のことです。

2:23 あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。

2:24 しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。

続いて教会の祈祷会では、福音を宣べ伝えつづけるための大胆さが与えられるように、そして、福音のメッセージが真実であることを奇跡が証明してくれるように、祈りました。神は主権者であり、最後には神のみこころがなされますが、それでも私たちには祈る必要があります。

5. 神が祈りに応えられる。(31 節)

31 節には、その場所が揺れ動き、彼らは聖霊に満たされて大胆に神のみことばを語ったとあります。

イエスの働きを続けていくために、彼らには聖霊が必要でした。私たちも同じです。

聖霊は、神のしもべがイエスの福音を告げ知らせられるように整えてくださいます。

私たちには毎日聖霊が必要です。今日この時に、私たちは聖霊を必要としています。

第二部

使徒 5 : 17-42

5:17 そこで、大祭司とその仲間たち全部、すなわちサドカイ派の者はみな、ねたみに燃えて立ち上がり、

5:18 使徒たちを捕らえ、留置場に入れた。

5:19 ところが、夜、主の使いが牢の戸を開き、彼らを連れ出し、

5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい」と言った。

5:21 彼らはこれを聞くと、夜明けごろ宮に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間たちは集まって来て、議会とイスラエル人のすべての長老を召集し、使徒たちを引き出して来させるために、人を獄舎にやった。

5:22 ところが役人たちが行ってみると、牢の中には彼らがいなかったので、引き返してこう報告した。

5:23 「獄舎は完全にしまっており、番人たちが戸口に立っていましたが、あけてみると、中にはだれもおりませんでした。」

5:24 宮の守衛長や祭司長たちは、このことばを聞いて、いったいこれはどうなって行くのかと、使徒たちのことで当惑した。

5:25 そこへ、ある人がやって来て、「大変です。あなたがたが牢に入れた人たちが、宮の中に立って、人々を教えています」と告げた。

5:26 そこで、宮の守衛長は役人たちといっしょに出て行き、使徒たちを連れて来た。しかし、手荒なことはしなかった。人々に石で打ち殺されるのを恐れたからである。

5:27 彼らが使徒たちを連れて来て議会の中に立たせると、大祭司は使徒たちを問いただして、

5:28 言った。「あの名によって教えるはならないときびしく命じておいたのに、何とことだ。エルサレム中にあなたがたの教えを広めてしまい、そのうえ、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしているではないか。」

5:29 ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。」

5:30 私たちの父祖たちの神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。

5:31 そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。

5:32 私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」

5:33 彼らはこれを聞いて怒り狂い、使徒たちを殺そうと計った。

5:34 ところが、すべての人に尊敬されている律法学者で、ガマリエルというパリサイ人が議会の中に立ち、使徒たちをしばらく外に出させるように命じた。

5:35 それから、議員たちに向かってこう言った。「イスラエルの皆さん。この人々をどう扱うか、よく気をつけてください。

5:36 というのは、先ごろチウダが立ち上がって、自分を何か偉い者のように言い、彼に従った男の数が四百人ほどありましたが、結局、彼は殺され、従った者はみな散らされて、あとかたもなくなりました。

5:37 その後、人口調査のとき、ガリラヤ人ユダが立ち上がり、民衆をそそのかして反乱を起こしましたが、自分は滅び、従った者たちもみな散らされてしまいました。

5:38 そこで今、あなたがたに申したいのです。あの人たちから手を引き、放っておきなさい。もし、その計画や行動が人から出たものならば、自滅してしまうでしょう。

5:39 しかし、もし神から出たものならば、あなたがたには彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすれば、あなたがたは神に敵対する者になってしまいます。」彼らは彼に説得され、

5:40 使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言い渡したうえで釈放した。

5:41 そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。

5:42 そして、毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。

ここから、初代教会の迫害の話の第二部です。

4章の話では、ペテロと使徒たちは一晩だけ牢屋で過ごし、ひどい言葉をかけられただけでした。けれども、ペテロは指導者たちに福音を紹介する機会を得ました。

今度は状況が少し深刻化しています。同時に、神の御手が明らかに働かれた心躍るような場面でもあります。

この個所の要点に注目するため、5つに分けて話しましょう。

1. 指導者たちの嫉妬 (17-18 節)

ペテロと使徒たちは、引き続き福音を告げ知らせ、イエスについて人々に教えました。彼らは、4:20 で語った「私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません」という自らの言葉に忠実でした。

指導者たちは、怒りと嫉妬に燃えました。使徒たちが彼らの言いつけを無視してイエスのことを教えていたことに腹を立て、イエスの教えで人々から大いに注目されていたことに嫉妬しました。

彼らは、使徒たちを全員逮捕して、留置場に入れました。

2. 神が御使いをとおして働かれる。(19-25 節)

使徒たちが留置場にいた夜、主の御使いが牢屋の戸を開けて、彼らを連れ出し、「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい」と言いました。

使徒たちは御使いの言葉に従い、宗教指導者の言葉には従いませんでした。人ではなく、神に従ったのです。

翌日、指導者たちは誰かが使徒たちを牢屋から逃がしたと知りました。そして、彼らがまた宮でイエスのことを教えていたことを知りました。

3. ペテロの説明と短い説教。(26-33 節)

宮の守衛長と役人たちは、使徒たちをふたたび捕まえて、もう一度尋問を受けさせるために指導者たちの前に連行しました。

ペテロは、告発に対して、「人に従うより、神に従うべきです」と説明しました。

そして、イエスと復活について説明する非常に短い説教を語り、イスラエルの人々に悔い改めを呼びかけました。

ペテロは、悔い改めれば罪が赦される、悔い改めの呼びかけに従う人は聖霊を受ける、と説明しました。

その結果、指導者たちはさらに憤慨し、使徒たちを殺そうと企てました。

4. 律法学者ガマリエルの助言。(34-40 節)

指導者たちが使徒たちを殺そうと企てる一方で、神は使徒たちを守ろうと働いておられました。ガマリエルという知恵のある律法学者を用い、指導者たちに良い助言をさせました。ガマリエルは、人々を扇動しようとしたふたりの男について語りました。どちらも、殺され、彼らが始めた運動もなくなりました。そのふたりは、チウダとガリラヤ人ユダでした。ガマリエルはこれに続いて 38-39 節で知恵のある言葉を語ります。「もし、その計画や行動が人から出たものならば、自滅してしまうでしょう。しかし、もし神から出たものならば、あなたがたには彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすれば、あなたがたは神に敵対する者になってしまいます。」

指導者たちは、ガマリエルの助言に同意するほかありませんでした。

それでも、使徒たちをむちで打つことで、憂さ晴らしをしました。

使徒たちはむちで打たれた後、釈放されました。

5. 使徒たちの反応 (41-42 節)

普通なら、使徒たちはむちで打たれたことで動揺して落胆し、しばらく福音を伝えるのをやめるだろうと思うでしょう。その町を出ていくだろうと思うかもしれません。

けれども、彼らは御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜んだとあります。そして、使徒たちは毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けました。

適用

1. 福音が聖霊の力によって語られ教えられると、必ず反発や抵抗が起こります。

聖霊は、神の民を黙らせるために力を与えられるのではありません。

私たちクリスチャンは、福音を大胆に語るために召されています。

ひどい扱いを受けたり、罪やイエスについて語るのをやめるように言われたりするの、うれしいことではありませんが、それでもイエスが私たちの救い主であると信じているなら、このお方について語るのをやめるわけにはいきません。

ひどい仕打ちを受けたり、危害を加えられたりするの、うれしくありませんが、イエスの御名のために苦しみを受けるなら、報いを受けます。また、苦しむ神のしもべを神が励ましてくださいます。

2. 神のみこころに抵抗してはいけません。

ガマリエルは知恵のある人でした。ある運動や状況に神が働いておられるなら、誰もそれを止めることはできない、と指導者たちに語りました。聖書の神は、全世界とすべての創造主であり、無敵のお方です。誰も神を止めることはできません。

約 2 千年前、ペテロが説教を語りました。現在、世界中には推計 21 億 8 千万人のクリスチャンがいます。

神が何かをしようと決められたら、誰もそれを止めることはできません。

神のみこころに抵抗するのは非常に危険な行為です。

神は、みことばの中にご自身を現されます。神の民である私たちに対して神が望まれるみこころについて、私たちは知らないと言い訳できません。それは、聖書に示されているからです。

3. 御使いは実在します。必要に応じて、神はご自身のみこころを成就するために御使いを用いられます。

御使いについては、後日もう少し詳しくお話しします。けれども、神が 24 時間常に守っていてくださるという事実は、私たちの励みになります。

4. 世界中には無数の宗教がありますが、真実の神を指し示すものは他にありません。

天国に通じる道はただひとつで、それはイエスをとおしてです。

宗教的信条を心から信じている人はいます。
けれども、聖書もイエスも明らかに教えているのは、道がただひとつであるということです。
そして、その道は、イエスです。
あなたはもうその道にたどりつきましたか。